

山口県における 2014 年の スギ・ヒノキ花粉飛散のまとめ

[報告 : 山口県医師会理事 沖中 芳彦]

昨年秋の観察定点における雄花の着花状態から、今シーズンのスギ花粉飛散総数を従来の回帰式で予測すると、県内測定機関の平均値として、平年値（最近 10 年間の平均） $2,570$ 個/cm² に対し、約 $2,200$ 個/cm² という予測値が導き出されました。しかし、ここ数年、予測数を実測数が上回ることが多いため、花粉数の増えた 2000 年以後の回帰式から導き出される約 $2,500$ 個/cm² というスギ花粉の値を採用し、今シーズンのスギ花粉総数は平年並みの飛散総数になるものと予測しました。

1 月は気温の低い日が続きましたが、寒さの緩んだ 1 月 29 日に早々とスギ花粉飛散開始となり

ました。そして花粉数は急に増加し、2 月 2 日～3 日には 100 個/cm²/日を超える花粉数を観測した測定点もありました。しかしその後は再度気温の低い日が続いたためか、花粉飛散はしばらく抑制されましたが、2 月後半になって活発化し、最多飛散日は飛散開始から 1 か月以上経過した 3 月 2 日でした(図 1)。花粉飛散総数の実測値は、県内測定機関の平均値として $2,530$ 個と、平年値をわずかに下回る、平年並みでほぼ予測通りの値でした(図 2)。非常に多かった昨年 ($4,300$ 個) の約 60% でしたが、裏年としてはこれまでで最も多い数であり、症状発現には十分過ぎる数でした。

図 1

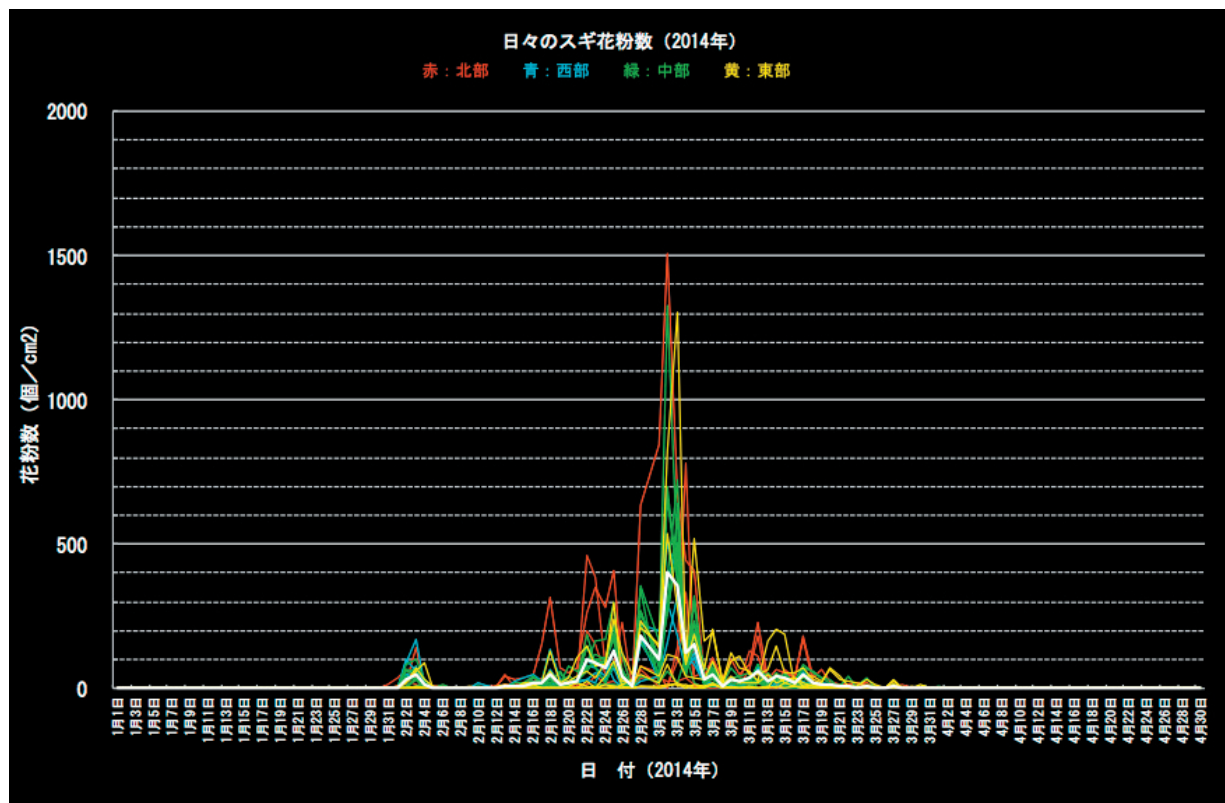


図 2

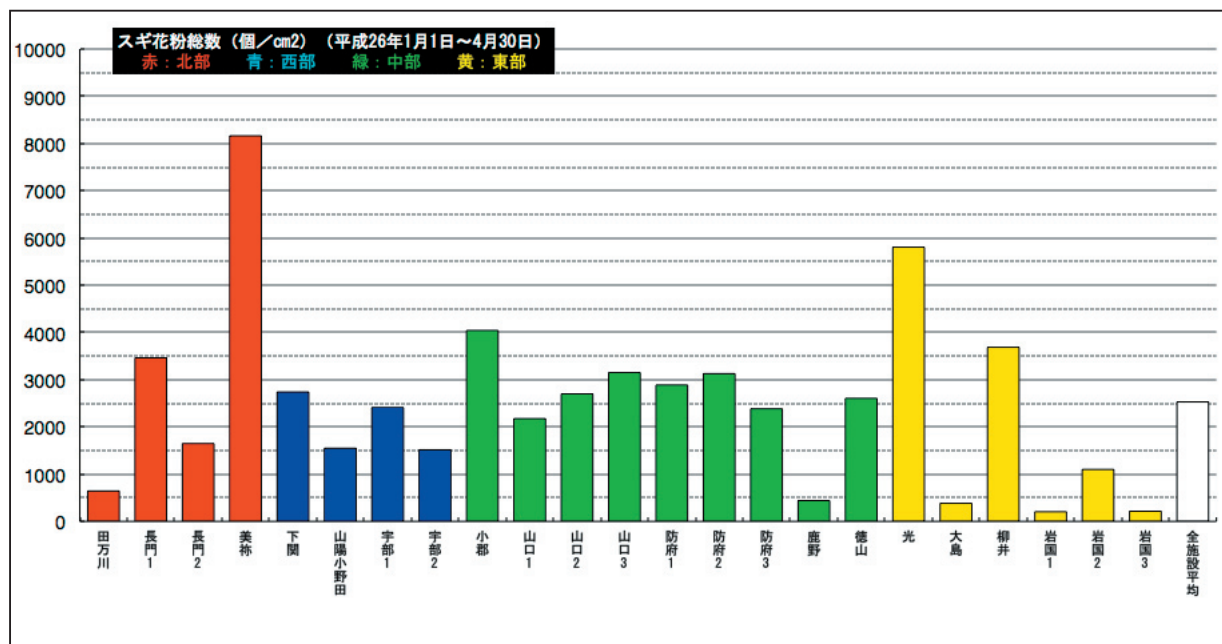


図 3

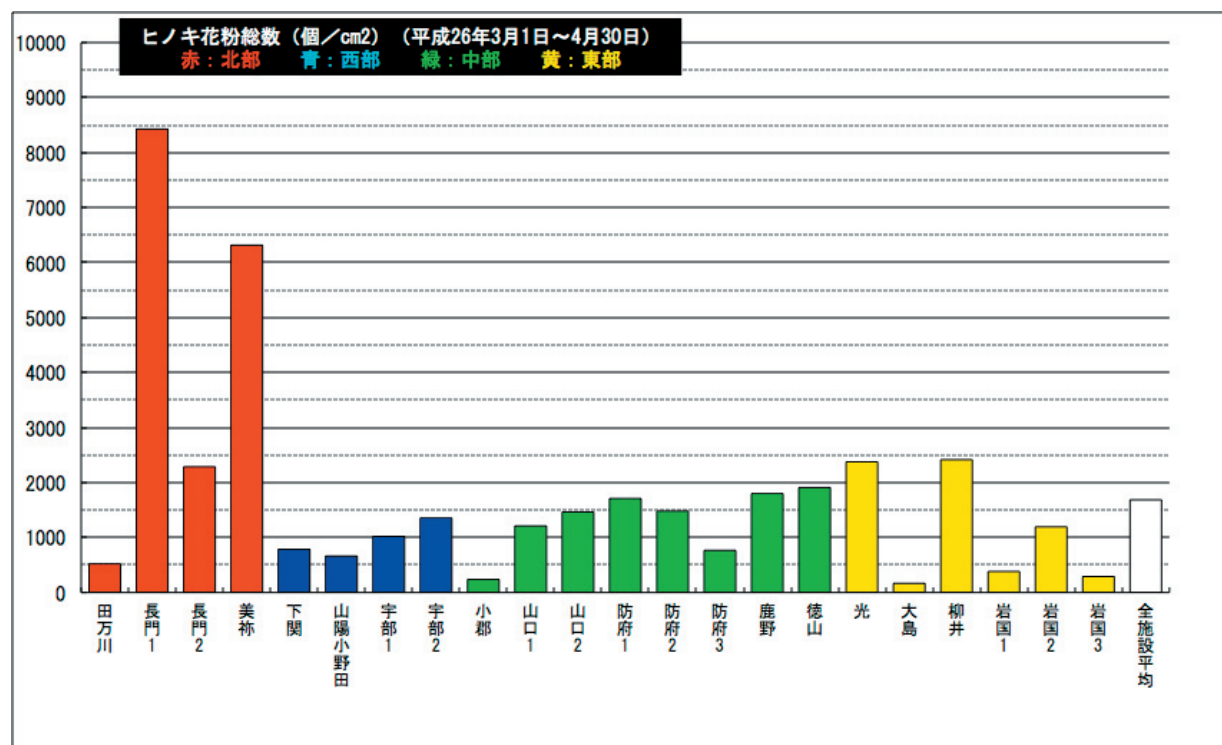
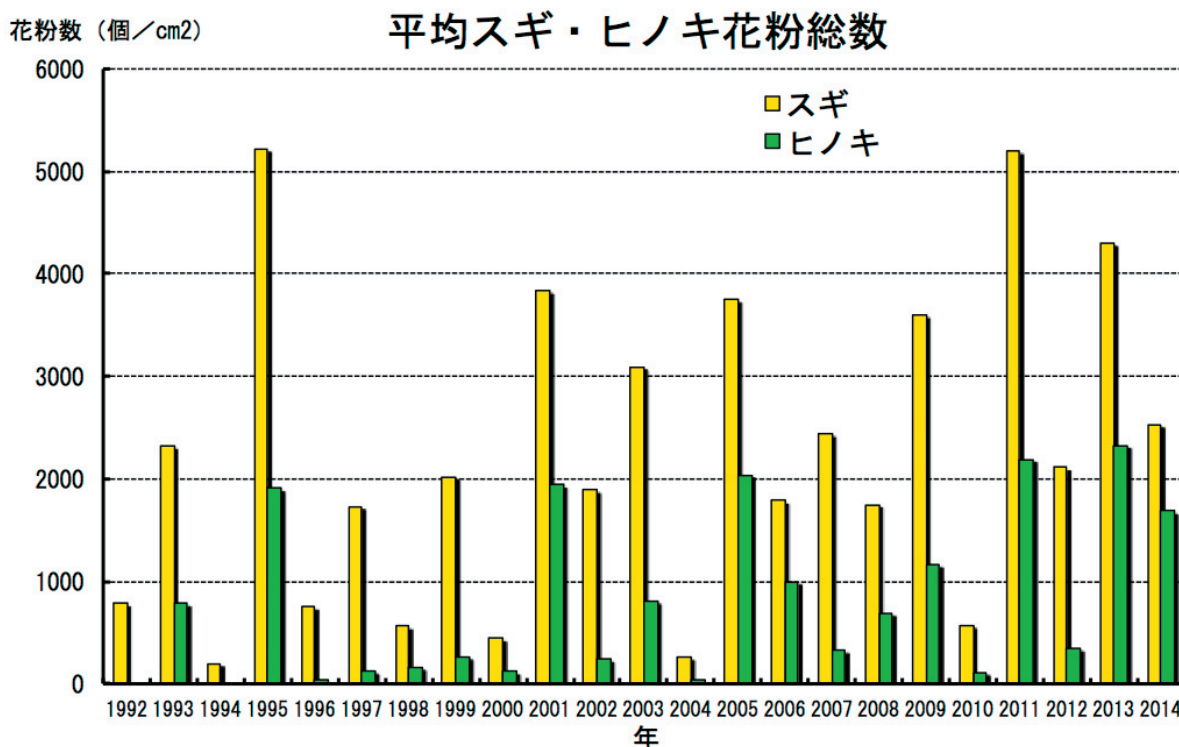


図 4



一方ヒノキは 4 月 30 日までで約 1,680 個の飛散総数となりました (図 3)。過去最多を記録した昨シーズンの約 2,330 個/cm² には及びませんが、平年値 (1,010 個) を上回る総数となりました。最多飛散日は、3 月 28 日でした。

図 4 は、全測定機関のスギ・ヒノキ花粉総数の平均値を年別に示したものです。今シーズン終了時点でのスギ花粉数の平年値 (本年を含む過去 10 年の平均) は、11 シーズン前の 2004 年が 260 個と少なかったことが影響し、2,800 個という非常に多い数となります。平年値が 3,000 個近い値となることは 10 年前には想像もできませんでした。今年はエルニーニョの発生が予測されており、その影響で冷夏になりそうとの予報が出されていましたが、最新の予報では、「北は涼しく西は暑くなる」そうです。来シーズンはスギ飛散の表年に当たりますが、当初の予測どおり西日本が冷夏になると、表年としては初めて平年値を

下回るスギ花粉飛散となるかもしれません。果たしてどうなるでしょうか。

※図 1 ～ 4 については、カラー画像を県医師会ホームページに掲載しております。

<http://www.yamaguchi.med.or.jp>